

第2学年 音楽を主体的に聴く力の育成を目指して

— 様々な活動を取り入れた鑑賞指導の工夫 —

阿南市 羽ノ浦小学校 折野博美

1 はじめに

鑑賞で大切なのは、聴く力である。聴く力が身に付いていると、音や演奏の違いに気づいたり、聴いたことを表現に生かしたりすることができる。音楽の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学ぶ力を支えるものは、聴く力であると考え。

しかし、鑑賞の指導は難しく、授業の流し方や発問、評価をどうすればよいかという悩みが私の中にずっとあった。楽曲を通して何回か聴かせるだけの退屈な授業になりがちで、おもしろさを感じないまま眠そうにしていたり、友達と私語をしたりしてしまう児童の姿をよく目にしてきた。そこで、児童が「聴くのが楽しい」「もっと聴きたい」と思えるような授業にしたいと考えた。そのために、具体的に「どの曲をどんな風に聴かせるか」ということを実践を通して考え、児童が主体的に音楽を聴くための様々な活動や手立てを工夫しながら、聴く力の育成を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究内容

- (1) 児童が主体的に音楽と関わるための手立て
- (2) 音楽的要素をとらえるための発問や活動の工夫

3 研究の実際

- (1) 常時活動
 - ①リズム遊び
 - ②音楽に合わせて体を動かす活動
- (2) 板書の工夫
 - ①曲全体を見通せる板書
 - ②聴き取ったこと（音楽的要素）と感じ取ったこと（気持ち・様子）を分けた板書
- (3) 音楽を主体的に聴くための手立て
 - ①題名当てをする
 - ②音楽に合わせて体を動かす
 - ③比較する
 - ④物語や様子を想像する
 - ⑤指揮をする
 - ⑥ワークシートを工夫する

4 結果の考察

- (1) 児童は、自分が考えたことを恥ずかしがらずに表現できるようになった。常に拍を体で感じることで、楽曲を聴く際にも音楽に合わせて自然に体を動かせるようになった。
- (2) 「速度が速くなったから追いかけているように感じた」など、自分が感じたことや想像したことに、音楽的要素の理由もつけて述べられる児童が増えてきた。
- (3) 児童は、楽曲を聴きながら「今日はどんな活動をするのかな」と楽しみにしていた。強弱や速度、音色の変化を体や言葉で表現することで、児童が感じていることを見取りやすくなった。

5 今後の課題

今回の活動は、鑑賞以外の領域を学習する際にも取り入れられると考える。鑑賞の授業で学んだことを歌唱や器楽演奏にも生かせるよう、鑑賞と表現を関連づけるなどして手立てを考えていきたい。また、音楽的要素を理解した上で本時のまとめができるよう、授業の中で共通事項について触れるタイミングや提示の仕方を工夫していきたい。